

特集

クラブ内研修を行っているクラブ

独自の研修で地域、そしてクラブの若返りを図る ～ NPO法人 吉野スポーツクラブ (奈良県吉野郡) ～

地域産業の衰退による町の少子高齢化とともに、指導者、クラブスタッフの高齢化といった問題を抱える奈良県吉野町にある「吉野スポーツクラブ」。このような問題を解決するため、クラブでは独自の若手育成研修プログラムを行っています。研修の内容とともに、実際に受講しクラブで活躍することになった若手スタッフの声をご紹介します。

🔑 キーポイント

- ★ 若手育成で地域の高齢化にストップ
- ★ 認定制度で独自の研修を義務化
- ★ クラブがスポーツに関わりたい若者たちの「帰る場所」に

1 クラブ概要

吉野スポーツクラブは、平成13年に文部科学省の総合型地域スポーツクラブ育成モデル事業として行政主導にて設立準備が始まり、平成15年8月に設立されたクラブです。その後、平成22年7月にNPO法人格を取得、設立10年目を迎えた平成25年には吉野運動公園の指定管理者となりました。

当クラブの理念は「スポーツを通した まち ひと づくり」です。林業の町として栄えた吉野町は、近年に入り林業の衰退とともに地域社会も少しずつ元気がなくなっていました。そこで、地域社会の再建のため、スポーツの力を活用し、クラブを通した町づくり・地域づくりを目標としたクラブ活動のほか、健康・体力づくり事業財団や奈良県地域での花いっぱい運動支援などの多岐にわたる受託事業を行っており、地域の新しい公共を担っています。

2 若手育成で地域の高齢化にストップ

林業の衰退とともに少子高齢化が進む吉野町は、年々町内の人口も減ってきています。現在は、元教員などの地域の人々がクラブでの指導を行っています。スポーツ指導者の資格を持つ人は少なく、数年後は指導者の高齢化も懸念されていたため、若い指導者の育成を含めた研修は必須でした。そこで、いろいろな講習会や研修会を視察しましたが、このようなクラブの問題を解決できるプログラムはなく、そのため「自分達で ひと づくり」しようと独自の研修制度ができました。若い指導者・スタッフへの研修は 若い世代にこの地域に目を向け、地域の将来を担ってほしいという思いもあります。

3 認定制度で独自の研修を義務化

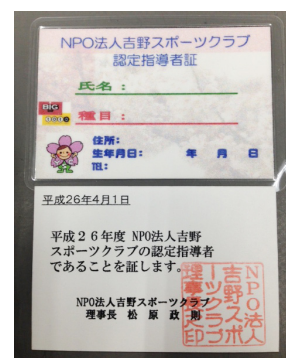
研修を受けることで、指導者・スタッフとしてクラブで活躍することができる認定制度を導入し、研修を義務づけしました。平成26年度に行われた2日間の研修では、1日目に、指導者の育成としてプロ指導者による指導教室を行い、2日目は「スポーツをより安全に」をテーマに、消防職員によるAEDの使用法や簡単な救急法、熱中症予防についてなどの実習を含む講習を行いました。そのほか、クラブ理念の共有も行い、クラブの存在やプログラムの意義や重要性の確認をしています。また、どんな場面においても常に迅速に行動・対処できるよう、安全管理などの講義も行いました。

このような研修について、自らもクラブ講師や若手指導を行うクラブマネージャーの村田満さん(61歳)は、「プロの指導者を呼ぶことは、単に指導だけを学ぶものではありません。その人の生き方・生きがい・生きざまを知ることによって自分の内なる目標になるものを見つけてもらうことが研修の目的です」と話しています。また、受講者は、研修を受けることで指導者・スタッフとしての知識を得るだけでなく、それぞれに目標を見つけることができ、地域住民にスポーツを推進していく上での自信にもなっているようです。また、研修によってクラブのミッション・ビジョンが明確になることで、クラブスタッフ同士の結束力にもつながっています。

研修にかかる経費は、講習会のテーマによってさまざまです。例えばAEDの救急方法は、広域の消防署においてボランティアで引き受けてもらいました。また、熱中症予防法も某製薬会社の方のボランティアで実施しました。ただし、プロの指導者を招いての講習会では、ボランティアになる場合と講師謝金を支払う場合があります。謝金が発生する場合は、クラブの管理費からねん出しています。



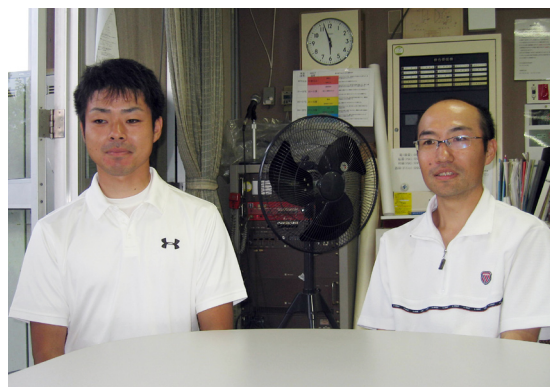
研修会や講習会の様子



受講後に発行される認定指導者証

4 クラブがスポーツに関わりたい若者たちの「帰る場所」に

元陸上選手の小林祥英さん(32歳)は、現在、クラブで陸上競技指導者、運営スタッフとして活躍しています。「指導者として子どもにスポーツする楽しさを教えたいということでスタートしたので楽しみながら参加できました。子どもたちと触れ合うことでたくさんの気づきもあります」と話し、選手時代とは違うスポーツの楽しみを発見できたようです。また、研修ではたくさんのことを学んだと、その重要性を実感。「運営スタッフとして自分の作成したリーフレットが認められた時はうれしかったです」と、クラブで働くことのやりがいを語るとともに、「自分を認めてもらえる場所」が地域にあることの大切さを語ります。また、サッカー指導者で公認アシスタントマネージャー資格を持つ浦谷仁規さん(26歳)も、クラブの研修に参加した後、地域のサッカー少年団から指導者としてこのクラブに帰ってきた若手指導者のひとりです。このように、研修会は、若い世代に地域で働くことの魅力を伝える場としても役立っています。



クラブで活躍する若手スタッフの浦谷さん(左)と小林さん(右)

5 今後の展望

今後も「地域に誇れるクラブから地域が誇れるクラブへ」をスローガンに、生きがいを提供できるクラブづくり、地域を生かしたクラブづくり、地域に貢献するクラブづくりを目指します。また、少子高齢化の中、子どもにとって希望が持て、高齢者の方には生きがいを感じられるクラブづくりをするとともに、地域に貢献することで地域の支援の下、地域をあげたクラブづくりをしていきたいと考えます。たくさんの人が集まり「スポーツを通した町づくり、人づくり」に取り組み、クラブが「地域の宝」になれるようクラブの発展に尽くしたいと思っています。

〈吉野スポーツクラブ松原政則理事長 談〉

(奈良県クラブアドバイザー 川崎香織)

クラブプロフィール

設 立：平成15年8月19日

地 域：奈良県吉野郡吉野町地区

会員数：437名（平成26年7月時点）

予算規模：5074万円（内指定管理費3205万円／補助金1147万円）

連絡先：〒639-3101

奈良県吉野郡吉野町山口910番地 吉野運動公園内

TEL：0746-32-1119 FAX：0746-32-1514

E-Mail：ma27gd77ml@kcn.jp HP：http://web1.kcn.jp/ysc/